

会議録

会議の名称	第5回朝霞市総合計画策定委員会
開催日時	令和6年4月10日（水） 午前 9時12分から 午前 9時50分まで
開催場所	朝霞市役所 別館3階 市長公室
出席者及び 欠席者の 職・氏名	<p>【出席者】 稲葉市長公室長、千葉危機管理監、金子総務部次長兼財政課長、 紺清市民環境部長、佐藤福祉部長、堤田こども・健康部長、 松岡都市建設部長、村沢審議監兼まちづくり推進課長、田中会計管理者、 益田上下水道部長、太田議会事務局長、小島学校教育部長、 奥山生涯学習部長、神頭監査委員事務局長</p> <p>（事務局） 櫻井市長公室次長兼政策企画課長、齋藤同課主幹兼課長補佐、 石崎同課政策企画係長、山本同課同係主任</p> <p>【欠席者】 なし</p>
議題	1 基礎調査修正版（報告） 2 分野別市民懇談会の結果概要（報告） 3 基本構想のイメージ 4 第5次後期基本計画総括評価シート・第6次新たな基本計画検討シート 5 その他
会議資料	<p>【資料1-1】 第6次朝霞市総合計画策定に向けた基礎調査報告（案） 【資料1-2】 基礎調査報告（案）に対する指摘事項及び対応 【資料2】 分野別市民懇談会 結果報告書（案） 【資料3-1】 朝霞市が目指すべき方向性 【検討資料】 調査結果の概要 【資料3-2】 朝霞市が目指すべき方向性 【検討資料】 本市の強み・弱み とキーワード 【資料3-3】 第6次朝霞市総合計画 基本構想の骨格（たたき台としての 事務局案） 【資料4-1】 第5次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価シート 【資料4-2】（参考）第5次朝霞市総合計画前期基本計画 総括評価シート 【資料4-3】 第6次朝霞市総合計画 新たな基本計画検討シート</p>

会議録の 作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	■要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の 当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 出席者の確認及び事務局の決裁	
傍聴者の数	—	
その他の 必要事項	なし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【開会】

【議題】

1 基礎調査修正版（報告）

【説明】

（事務局：石崎政策企画課政策企画係長）

基礎調査修正版について報告する。

資料1-1は、2月に開催した第4回総合計画策定委員会、3月に開催した第3回総合計画審議会での指摘事項を踏まえ、基礎調査報告（案）に対して修正を行ったものである。

前回の策定委員会での意見とその対応について、資料1-2を用いて説明する。

指摘事項の1段目、「企業誘致は市の産業基本計画では、リーディング・プロジェクトと建て付けており、課題とまでは設定していないので、ここで課題とするのはどうか。」との意見を受け、見出し及び本文から「企業立地」の文言を削除した。

次に、2段目、「朝霞のライフスタイル」が何を指すのか分からない。」との意見を受け、「朝霞のライフスタイル」を「朝霞市での暮らし」に表現を改めた。

そのほか、総合計画審議会において、「本市の場合、人口増加が続いていることもあって、出生率の低下と人口減少への危機感が弱いのではないか。」「若者・女性のニーズをもっと踏まえていくことが大切ではないか。」「妊娠期から、切れ目なく支えていくという内容が必要ではないか。」といった意見があり、それぞれ「若者や女性等のニーズを踏まえながら」や「切れ目のないきめ細かな出産・子育て等の支援に努める等」と記載を追記した。

なお、第3回総合計画審議会において、第5次朝霞市総合計画に掲載されている財政推計に関する資料の第6次総合計画版の提供を求められており、次の審議会で配付できるよう準備をしている。

また、同様に、「参考図表」として掲載されている各施設位置図なども基礎調査に加えるよう意見があったため、現在、準備を進めている。

これらの資料は、用意が整い次第、本委員会においても配付する。

説明は以上である。

【質疑等】

（紺清市民環境部長）

18ページ、指標は「粗付加価値額」、下段の説明は「付加価値額」となっており、表現が一致していない。

19ページ、下段の説明に「完全失業率、若年層（ここでは15～29歳）の完全失業率」とあるが、上表には若年層の完全失業率しか記載されていない。

20ページの2では、「自市内従業率」と「自市町内従業率」の二つの表現があり、また、19ページでは「自市内従業割合」という表現になっている。

最後に、27ページの説明で「56.3%から52.8%へと減少」とあるが、上のグラフの割合を足すと、56.3%ではなく56.5%となる。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

表現の統一、修正を行う。

また、今の指摘を踏まえ、確定前に再度、全体の文言等の見直しを行う。

【結果】

指摘のあった点について修正を行うとともに、全体の確認を行う。

【議題】

2 分野別市民懇談会の結果概要（報告）

【説明】

(事務局：石崎政策企画課政策企画係長)

分野別市民懇談会の結果概要について報告する。

資料2は、2月17日及び18日に開催した分野別市民懇談会の結果をとりまとめた報告書である。

1ページだが、当懇談会は、第6次朝霞市総合計画の策定に当たり、幅広く市民の意見を聴取するために実施したもので、2月17日に2回、18日に3回の計5回、中央公民館・コミュニティセンターで開催し、各回の合計で64人の市民が参加した。

各回においては、各分野に係る部会の職員からの説明後、グループに分かれてその分野における朝霞市のいいところ、改善が必要と思うところ、現状について意見交換を行い、その内容を基に目指すべき姿を話し合い、グループごとに発表を行った。

各分野で議論された主な意見については、市民環境分野では、不用品等の捨て方が分からないという現状があり、改善策として、利用していない家具や不用品の再利用を行うという意見があった。

都市建設分野では、下水の更新は間に合うのかという現状があり、改善策として、水道に関する老朽化対策は多く必要になることから、予算の確保が必要との意見があった。

教育分野では、施設のバリアフリーが遅れているという現状があり、改善策として、施設のバリアフリーに重点を置いた方がよいとの意見があった。

健康福祉分野では、検診率が低い改善策が必要との現状があり、検診率を上げるためのPRやキャッチコピーが必要との意見があった。

最後に、総務分野では、ホームページの情報量が多いが、探しづらい部分があるという現状があり、改善策として見たくなるホームページにするという意見があった。

その他の意見については、2ページ以降に、分野ごとにまとめている。

説明は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

総合計画審議会において、報告を行う。

【議題】

3 基本構想のイメージ

【説明】

(事務局：齋藤政策企画課主幹兼課長補佐)

資料3-1、3-2は、第4回策定委員会における意見を踏まえて修正を加え、3月に開催した第3回審議会での意見も踏まえ、更に修正を加えたものである。

審議会での意見については、資料3-2に溶け込ませた形で反映し、加筆した部分については星印を付している。

具体的には、左側の「本市の強み」の「人口の動向」の二つ目、「有配偶率、合計特殊出生率」について「比較的高い」としていたが、国の平均を下回っていることから、「合計特殊出生率の具体的な数字の1.25」を加え、比較対象を分かりやすくするため「県内では高」とした。

また、右側の「本市の弱み」では、中段の「まちの性格や環境」の5つ目に「自然災害の頻発とその対策の重要性」を加えた。

これらの本市の強みと弱みやそこから導き出されたキーワードが、これから策定を進める総合計画において、朝霞市の将来像等を構成する要素となる。

次に、資料3-3だが、基本構想の審議に当たり、基本構想の構造、内容など全てをゼロベースから検討してもらおう考えもあったが、現行の第5次朝霞市総合計画の基本構想の策定時には、ある程度の内容を示しながら審議をしたことや、限られた審議時間とスケジュールの中で検討することの負担が大きいと考え、たたき台として、基本構想の構造と、ある程度の内容を記載した骨格案を、事務局にて作成した。

本日は、1点目として、第6次総合計画の基本構想の構造について、「資料3-3別紙」として机上配付した、第5次総合計画の基本構想の構造との対比等を踏まえ、議論してもらいたい。

2点目として、基本構想に掲げる具体的な内容について、「将来像（ビジョン）」「将来像実現のための基本方向」「将来像実現のための共通理念」の仮置きしている事務局案の方向性でよいか、違う視点はないか等、議論してもらいたい。

第1章は、「1 趣旨と目的」「2 期間」から構成し、趣旨と目的では、市政運営の最上のビジョンであるだけでなく、市民と市が共有すべきビジョンであることなどを記載する。

なお、第5次総合計画ではここの第1章で位置付けられていた、政策を立案・推進する際の留意点【ポイント】に相当する内容は、「第3章 将来像実現のための共通理念」として後段に置くこととした。

次に、第2章だが、この第2章の見出しを、第5次総合計画のように「将来像」とせずに「目指すべき方向性」とし、将来像に向かっていく「動き」を表すため、「2 将来像実現のための基本方向」を加えた。

「1 将来像（ビジョン）」は、資料3-2を基に紡ぎ出した仮案として「未来へつなぐ だれもがいつまでも住み続けたいまち 朝霞」としたが、これはあくまで事務局の仮案であり、ここでもらった意見を加えて審議会に示したいと考えている。

この将来像（ビジョン）の説明は、仮案として下段に記載した通りで、朝霞市の歩みの振り返り、現状と課題、目指す方向性で構成している。

次に、「2 将来像実現のための基本方向」は、第5次総合計画でいう将来像の「基本概念【コンセプト】」に、方向性という「動き」の要素を加味したものであり、これらも将来像を基にした事務局の仮案であるため、この場で意見をもらいたいと思っている。

次に、「第3章 将来像実現のための共通理念」だが、これは、前述のとおり、第5次朝霞市総合計画でいう「政策を立案・推進する際の留意点（ポイント）」を「共通理念」と言い換えたものである。

言い換えた理由は、第5次朝霞市総合計画の表現を見出しだけで見ると、行政、市役所のみが留意する事項と捉えることもできるが、今後の朝霞市のまちづくりを推進するためには、市民・団体・行政のみならず、事業者や学術研究機関なども含めた多様な主体が想いを共有して取り組むべきと考えられ、そのことを強調するため、「共通理念」としたものである。

将来像のどの部分に係る理念なのかに留意しつつ、ここでは仮に3つ置いているが、これらも事務局の仮案であるため、この場で意見をもらいたいと思っている。

最後に、「第4章 基本構想の推進に向けた政策分野」だが、これは、基本計画の分野構成を規定する内容となるため、今回の会議では後期基本計画の分野構成を参考として議論し、次の機会に案を示すことを想定している。

なお、現行の基本構想と同様に、分野のみを示し、現状と課題・目指す姿については、第5次朝霞市総合計画と同様、基本計画の中に位置付けていくことを検討している。

説明は以上である。

【質疑等】

(村沢審議監兼まちづくり推進課長)

将来像において、第5次で「暮らしたげたい」だったものを、今回は「住み続けたい」と表現を変えている一方で、基本方向では「安心して暮らせる」という表現もある。

「暮らす」と「住む」の表現について、市民意識調査等から引用してきたなど、使い分けのポイントはあるのか。

(事務局：齋藤政策企画課主幹兼課長補佐)

「住み続けたい」については、資料3-2の「朝霞市が目指すべき方向性のキーワード」において、「住み続けたい魅力的な環境」というものがあり、ここから引用している。

基本方向における「暮らせる」という表現との使い分けは位置付けていないため、その点も含めて議論してもらいたい。

(村沢審議監兼まちづくり推進課長)

住宅施策の視点においては「住む」という表現を入れてもらいたいとは思っているが、「住む」は今までの「暮らす」に内包されている感覚がある。

(事務局：齋藤政策企画課主幹兼課長補佐)

表現をどのようにするか、また、統一するかなど、検討する。

(太田議会事務局長)

前計画と比較し大きく変わっているが、これまでのコンセプトは「安全・安心」など細かい言葉で具体的になっていたが、今回は、基本方向の内容が抽象化されて読みやすく、「作る」という動詞で結ばれていることや、基本理念でも「心掛ける」という言葉で、市民や行政の行動を促すような前向きな印象を受ける。

具体性という意味では精査が必要なこともあるかもしれないが、新しいイメージになるという意味でも、全体的には良い印象を持っている。

気になる点として、抽象化され、分野が限定されていないことで、横断的に取り組めるイメージがある一方、施策を落とし込んでいくときには、横での連携等が求められ、難し

い部分が出てくると思う。

(佐藤福祉部長)

前計画の将来像については、事務局案として大きくは示さず、審議会で議論を重ねて決めていったと思う。

その中で、政策分野のジャンルに基本概念という形で横ぐしを刺すことや、留意点を置くことについても審議会から意見が出され、計画が作られたイメージである。

今回、審議会でどのように議論を進めているかは分からないが、そのように審議会の議論を大きくしてもよいのではないか。

また、将来像は基本理念というイメージであるが、基本方向や共通理念とどのような違いがあるか、説明できるとよいと思う。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

前計画においても、最終的には複数案を示したりしながら決めていったと記憶している。審議会に意見を聴くときは、同様に複数案を用意した方がよいと考えている。

(佐藤福祉部長)

審議会の委員によるワークショップを行い、将来像などの意見が出てきた記憶があるので、手法は問わないにしても、色々な意見を踏まえながら考えていってほしい。

【結果】

意見を踏まえ適宜修正し、総合計画審議会に諮ることとする。

【議題】

4 第5次後期基本計画総括評価シート・第6次新たな基本計画検討シート

【説明】

(事務局：山本政策企画課政策企画係主任)

第5次後期基本計画総括評価シート・第6次新たな基本計画検討シートについて説明する。

今年度は、基本構想の検討と並行し、基本計画の策定にも着手していくこととなるが、基本計画の策定に当たっては、現行の第5次総合計画後期基本計画、引いては、第5次総合計画の総括評価を行い、そこから導き出される現状と課題を踏まえ、新たな基本計画の柱建てや施策を位置付けていく必要があると考えている。

事務局において、総括評価を行うためのシート案として作成したものが資料4-1、新たな基本計画を検討するためのシート案が資料4-3である。

これらのシートにおける、評価及び検討を行う際に材料とする項目について、資料に示したもののほか、追加した方がよい項目などあれば意見をもらいたい。

まず、資料4-1の総括評価シートは、前回、第5次総合計画前期基本計画の評価を行った際に用いたシートを基に作成しており、資料4-2がそのシートである。

前期基本計画と後期基本計画で、評価の視点に大きな差が生じないように、大幅な変更は加えない方向で作成している。

前回のシートからの変更点としては、「主な取組・成果と達成状況」においては、右端、アルファベットで評価を行う「達成状況」の判断理由が分かりやすいよう、達成できたこ

と、達成できなかったことを別の枠で記入するレイアウトとした。

「R5年度市民意識調査による重要度・満足度」は新規項目となるが、昨年11月から12月にかけて実施した「朝霞市民意識調査」の報告書から、満足度と重要度の数値、満足度と重要度の相関関係により区分されたマトリクスの領域、また、自由記述の意見を転記することで、評価の際に市民の意見を意識しやすい作りとしている。

「第三者機関からの評価」や「今後の課題」については、前回のシートでは中柱のみ記載する様式となっていたが、「主な取組・成果と達成状況」と対になる項目であると考え、「大柱」についても記載する欄を設けている。

次に、資料4-3だが、このシートは総括評価を行った後、第6次総合計画における、新たな基本計画の内容を検討していくために用いるものである。

「I 今後の課題と新たな基本計画における取組」における「課題」の欄は、先ほど説明した総括評価シートの「今後の課題」からリンクを貼り、入力内容が引用される作りすることで、総括評価との連続性を持たせるようにしており、また、時代潮流等を踏まえ、現行の基本計画には含まれなかった新たな柱の提案をするための欄を設けている。

「II 新たな基本計画における成果指標の提案」においても、同様に、現行の基本計画では用いていなかった新たな成果指標を提案するための欄を設けている。

「III 新たな基本計画に対するその他の意見・提案」は、施策の体系として、従前の大柱の統廃合や新設についての提案や、大柱に変更は無くとも、中柱や小柱に関する意見等を提案できる作りとしている。

なお、ここでの意見・提案については、各シートの内容を取りまとめ、全体のバランスを考慮し、策定委員会や審議会の意見を踏まえ、計画への反映を検討していくことを考えている。

説明は以上である。

【質疑等】

(松岡都市建設部長)

前回の総括評価シートを見ると、できたことについての表現が多く、今回のシートにある、できなかったことを記載するのは難しいのではないかという印象を受けるが、今回、このようなレイアウトとした背景はあるのか。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

以前、できたことだけを基に次期計画に結びつけたところ、達成できなかったことについてはどう考えているのか、との意見が出されたことがあった。

総合評価の判定をする際、両方を書くことにより、達成状況を導き出すことができるようにし、また、できなかったことを職員が認識し、次期計画に繋げていってほしいという意図から設けている。

(佐藤福祉部長)

評価シートについて、大柱での達成できたこと、できなかったことを書くのは難しいのではないか。

また、達成状況のアルファベットによる評価については、評価が適切か、審議会等においていつも話題に挙がり、難しさを感じており、何か基準を示してもらえるとありがたいと思っている。

なお、「達成できなかったこと」との誤字があるため、修正してもらいたい。

検討シートについては、今から成果指標を考えるのは難しく、一番の課題ではないかと思っている。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

大柱の記載については、中柱の記載内容を積み上げて記載することが想定されるが、今の意見を踏まえ、大柱の記載欄を設けるか検討する。

達成状況の評価については、審議会から、言葉だけでは読み取るのが難しいとの意見も出されることから、アルファベット等の評価が必要と考えているが、評価に当たっての基準のようなものは示したいとは考えている。

検討シートについては、後期の振り返りの中での課題を踏まえ、検討をしてもらうことを想定しているため、評価や進捗状況により、適宜、成果指標等の修正は可能なものと考えている。

(佐藤福祉部長)

5次の評価や振り返りを行い、課題を抽出し、6次の柱建てをしていくという流れか。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

柱建ては、評価の状況や審議会からの意見を踏まえて変わっていくものと考えている。

(太田議会事務局長)

前期基本計画における総括評価は3年間の評価であり、今回の後期基本計画の総括評価との間の2年間は、評価に含まれていないということになるのか。

含まれていないとしても、単年度の評価は行っているため、その評価を反映させるということはできるのではないかと思うが、どのように考えているか。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

過去にその2年分を踏まえた外部評価を行っているかなど、状況を確認した上で、評価の方法について検討する。

(太田議会事務局長)

今回の議題としては、シートのレイアウトを検討するためだけのものか。または、これからシート作成の作業を開始してもらうという意図も含んだものなのか。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

現時点ではシートの項目の検討段階であり、作業開始の意図はない。

【結果】

意見を踏まえ、引き続き検討を進める。

【議題】

5 その他

【説明】

(事務局：櫻井政策企画課長)

今後の予定だが、基礎調査については、意見を踏まえ修正し、審議会会長と協議の上、確定させたいと考えている。

分野別市民懇談会の報告書、基本構想のイメージ、総括評価シート等については、4月19日の総合計画審議会において、意見をもらい、適宜修正を行う。

なお、人口推計については、次回審議会においてある程度の方向性をまとめ、次回の策定委員会において報告する。

次回の策定委員会の日程は、開催の予定が固まり次第連絡する。

【質疑等】

なし

【閉会】